

生命表の長期時系列構築に関する研究

Study for Construction of Long Series for Japanese Life Tables

石井 太 (国立社会保障・人口問題研究所)

Futoshi Ishii (National Institute of Population and Social Security Research)

ishii-futoshi@ipss.go.jp

わが国の平均寿命は 20 世紀後半に著しい伸長を遂げ、日本版死亡データベース (Japanese Mortality Database, 以下 JMD) によれば、2014 年には、男性 80.50 年、女性 86.82 年、男女計で 83.73 年と、現在、世界有数の長寿国として国際的に見てもトップクラスの水準を誇っている。そして、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口 (平成 24 年 1 月推計)」によれば、平均寿命は 2060 年には男性 84.19 年、女性 90.93 年 (死亡中位仮定) に達すると推計されており、今後も長寿のフロンランナーとして走り続けるものと見込まれる。

このような、わが国の世界にも類を見ない長寿化のメカニズムと背景を捉える観点から、国立社会保障・人口問題研究所では、研究プロジェクト「わが国の長寿化の要因と社会・経済に与える影響に関する人口学的研究」(平成 23~25 年度)において、国際的な生命表のデータベースである Human Mortality Database (HMD)と整合性をもち、わが国の生命表を死亡研究に最適化して総合的に再編成した JMD の開発を行い、ホームページにおいて提供を行っているところである。さらに、この後継プロジェクト「長寿化・高齢化の総合的分析及びそれらが社会保障等の経済社会構造に及ぼす人口学的影響に関する研究」(平成 26~28 年度)においても、JMD の維持・更新とともに、さらなる拡充や発展に関する研究を行っている。

このような拡充や発展に関する研究課題の一つとして、生命表の長期時系列構築が挙げられる。わが国では第二次大戦期において、調査票の喪失等により死亡統計が完全ではない部分が存在しているため、現在、JMD の全国版では作成年次を 1947 年以降に限定している。しかしながら、このことにより、わが国の戦前を含んだ長期的な死亡動向について、JMD を用いて分析を行うことができないのが現状であり、この観点から作成年次を戦前にまで拡大することが望ましい。また、JMD において、期間生命表だけでなくコーホート生命表を開発し提供していくことも課題の一つであるが、0 歳から直近の年齢まで連続したコーホート生命表を、より多くの世代について提供するためには、やはり作成年次を戦前にまで拡大することが必要である。一方で、戦前期における死亡統計については、現在よりも届出遅れが多かったことから、死亡データに関して届出遅れによる影響の補正を行った上で生命表を作成することが求められ、その補正法をどのような方法に基づいて行うかなど、生命表の長期時系列構築に関しては方法論上の様々な課題が存在している。本研究は、この死亡の届出遅れの補正法を中心としながら、JMD における生命表の長期時系列整備に関する方法論について基礎的な研究を行うものである。